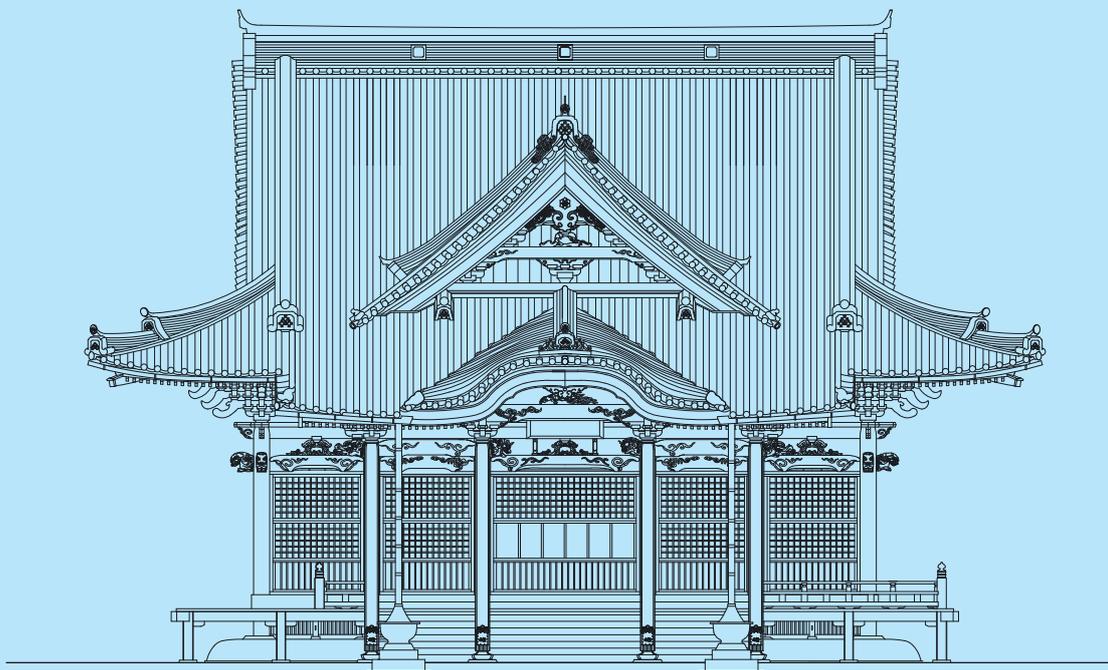




公益財団法人
和歌山県文化財センター 一年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2024





1 大芝遺跡 2 区縄文時代の竪穴建物跡群（東から）



2 大芝遺跡 2-1 区遺構 374（土壙墓）石出土状況（東から）



3 金剛峯寺不動堂



4 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿

目次

令和6(2024)年度 受託業務一覧…………… 2

令和6(2024)年度 受託業務所在地図…………… 3

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等

大芝遺跡の発掘調査……………	4
岩橋千塚古墳群前山B地区の発掘調査……………	6
和田岩坪遺跡の出土遺物等整理……………	7
前田遺跡の出土遺物等整理……………	7
東照宮石垣解体に伴う発掘調査等支援……………	8
垣内遺跡の発掘調査支援……………	9
三軒茶屋跡の発掘調査等支援……………	9
立野遺跡の試掘確認調査等支援……………	10
県指定史跡中世行幸啓御泊所跡の確認調査支援……………	12
県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援……………	14
紀美野町内遺跡試掘確認調査及び 工事立会調査等支援……………	15
湯浅町内遺跡工事立会調査等支援……………	15
田辺市内遺跡確認調査等支援……………	16
上富田町内遺跡試掘確認調査及び 工事立会調査等支援……………	16
八反田遺跡の第1次出土遺物等整理支援……………	17
史跡道成寺境内保存活用計画策定の部分支援……………	18
高野町内石造文化財の調査支援……………	18

文化財建造物の保存修理技術指導

国宝 金剛峯寺不動堂の保存修理……………	19
重要文化財 三郷八幡神社本殿の保存修理……………	21
重要文化財 金剛峯寺山王院本殿の保存修理……………	22
重要文化財 丹生官省符神社本殿防災設備等事業……………	22
県指定文化財 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿 の保存修理……………	23
県指定文化財 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社 本殿の保存修理……………	24
和歌公園観海閣新築工事……………	26
史跡 旧名手宿本陣 名手役所主屋前土堀の復旧……………	27
県指定名勝 藤崎弁天手水舎の保存修理……………	27
護国院の歴史的建造物図面作成……………	28
養源寺境内建物の実測調査……………	28

関連研究・資料紹介

頁岩製とサヌカイト製石製品の比重による判別は可能か…………… 29

普及活動

令和6(2024)年度の普及活動……………31

センター概要

令和6(2024)年度 概要……………35

巻頭写真

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 大芝遺跡2区縄文時代の竪穴建物跡群(東から) | 3 金剛峯寺不動堂 |
| 2 大芝遺跡2-1区遺構374(土壌墓)石出土状況(東から) | 4 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿 |

例言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが令和6年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務・調査・技術支援、文化財の計画・調査支援及び普及啓発活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が発行する「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」『和歌山県地理情報システム』<https://wakayamaken.geocloud.jp/mp/4>(和歌山県総務部行政企画局情報基盤課)(地図は、国土地理院発行の数値地図)の複製を一部加筆し引用した。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に事業の実施に伴い撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、石丸彩・大給友樹が担当した。

令和6(2024)年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

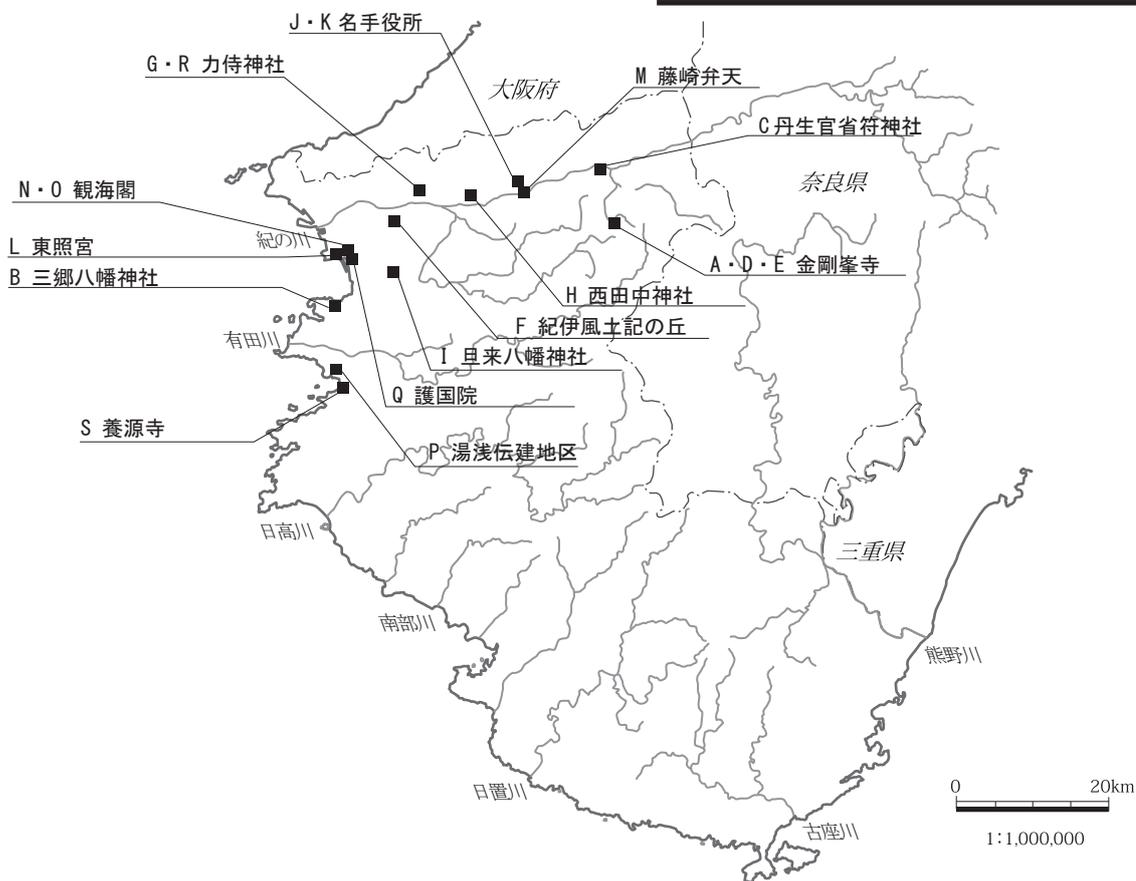
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う大芝遺跡発掘調査業務	日高郡日高川町佐井	2024.03.06～ 2025.03.31	13284.1 ㎡	和歌山県
2	すさみ町第2庁舎建設工事に伴う立野遺跡試掘確認調査等支援業務	西牟婁郡すさみ町周 参見	2024.04.02～ 2024.05.31	-	すさみ町
3	令和6年度和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う和田 岩坪遺跡第2次出土遺物等整理業務	和歌山市和田	2024.04.05～ 2025.01.15	-	近畿農政局
4	市道比奈久保線交差点改良工事に伴う八反田遺跡第1次出土遺物等整 理支援業務	新宮市佐野	2024.04.09～ 2025.03.31	-	新宮市
5	田辺市内遺跡確認調査等支援業務	田辺市内	2024.05.13～ 2025.03.31	-	田辺市
6	県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う前田遺跡出土遺 物等整理業務	日高郡日高川町佐井	2024.06.06～ 2024.11.30	-	和歌山県
7	令和6年度上富田町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援業務	西牟婁郡上富田町内	2024.07.09～ 2025.03.31	-	上富田町
8	集会所建築工事に伴う記録保存目的のための発掘調査支援業務	日高郡日高川町船津	2024.08.03～ 2024.09.06	-	日高川町
9	史跡道成寺境内保存活用計画策定部分支援業務	日高郡日高川町鐘巻	2024.09.02～ 2025.03.31	-	株式会社都市景観設計
10	高野町文化財保存活用地域計画調査(石造文化財調査)支援業務	伊都郡高野町高野山	2024.10.01～ 2025.03.31	-	高野町
11	紀美野町内遺跡試掘確認調査及び工事立会調査等支援業務	海草郡紀美野町内	2024.10.12～ 2025.03.31	-	紀美野町
12	令和6年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援業務	和歌山県内	2024.10.30～ 2025.03.31	-	和歌山県
13	那智大社職員寮建設に伴う和歌山県指定史跡中世行幸御泊所跡確認 調査支援業務	東牟婁郡那智勝浦町 那智山	2024.12.03～ 2025.03.31	-	那智勝浦町
14	三軒茶屋跡発掘調査等支援業務	田辺市本宮町大居	2024.01.15～ 2025.03.31	-	田辺市
15	東照宮石垣解体に伴う発掘調査技術職員等支援業務	和歌山市和歌浦西	2024.02.07～ 2025.03.31	-	公益財団法人和歌山市 文化スポーツ振興財団
16	令和6年度紀伊風土記の丘再編整備事業に伴う記録保存調査業務	和歌山市岩橋	2024.01.16～ 2025.03.31	120.2㎡	和歌山県
17	令和6年度湯浅町内遺跡工事立会調査等支援業務	有田郡湯浅町内	2025.03.13～ 2025.03.31	-	湯浅町
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	国宝(建造物)金剛峯寺不動堂保存修理技術指導業務	伊都郡高野町高野山	2023.11.01～ 2025.03.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
B	重要文化財(建造物)三郷八幡神社本殿保存修理技術指導業務	海南市下津町黒田	2024.06.03～ 2025.09.30	1棟	宗教法人三郷八幡神社
C	重要文化財(建造物)丹生官符神社本殿防災施設等事業に関する技術 支援業務	伊都郡九度山町慈尊 院	2024.06.01～ 2024.10.31	1棟	N-E.E.D 設備・設計・監 理 西達也
D	重要文化財(建造物)金剛峯寺山王院本殿保存修理基本設計業務	伊都郡高野町高野山	2024.08.01～ 2024.08.30	3棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
E	重要文化財(建造物)金剛峯寺山王院本殿丹生明神社ほか2棟保存修理 技術指導業務	伊都郡高野町高野山	2024.11.01～ 2026.10.31	3棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
F	令和6年度紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指 導業務委託	和歌山市岩橋	2025.03.06～ 2025.03.31	1棟	和歌山県
G	和歌山県指定文化財(建造物)力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿保存 修理技術指導業務	和歌山市川辺	2024.07.01～ 2025.11.30	2棟	宗教法人力侍神社
H	和歌山県指定文化財(建造物)西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿 保存修理技術指導業務	紀の川市中井阪	2023.09.04～ 2024.09.30	2棟	宗教法人西田中神社
I	和歌山県指定文化財(建造物)旦来八幡神社本殿保存修理技術指導業務	海南市旦来	2025.02.25～ 2025.03.31	1棟	宗教法人旦来八幡神社
J	名手役所主屋前土塀復旧工事設計監理業務	紀の川市名手市場	2024.05.02～ 2025.03.31	1棟	紀の川市
K	名手役所周囲土塀等保存修理に伴う技術支援業務	紀の川市名手市場	2024.02.05～ 2025.03.31	-	紀の川市
L	和歌の浦歴史生き生き!史跡等総合活用整備事業における東照宮石垣 保存修理技術指導業務	和歌山市和歌浦西	2024.09.02～ 2025.12.31	-	宗教法人東照宮
M	県指定名勝藤崎弁天手水舎修理工事設計監理業務	紀の川市藤崎	2024.04.26～ 2025.03.21	1棟	紀の川市
N	和歌公園観海閣新築工事設計意図伝達業務	和歌山市和歌浦中	2023.08.02～ 2025.12.17	1棟	和歌山県
O	和歌公園観海閣新築工事海部基礎廻り見直しに伴う技術支援業務	和歌山市和歌浦中	2024.07.01～ 2024.08.31	1棟	三洋建設株式会社
P	湯浅伝建地区保存修理技術指導等委託業務	有田郡湯浅町湯浅	2024.07.26～ 2025.03.28	-	湯浅町
Q	護国院の歴史的建造物図面作成業務	和歌山市紀三井寺	2024.06.24～ 2025.03.31	6棟	宗教法人護国院
R	指定文化財図面作成業務	和歌山市川辺	2025.01.30～ 2025.03.31	2棟	和歌山県
S	養源寺実測調査業務	有田郡広川町広	2024.12.16～ 2025.03.31	3棟	広川町
T	指定文化財建造物耐震予備診断業務	和歌山県内	2025.01.30～ 2025.03.31	45棟	和歌山県

令和6(2024)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・支援業務等



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



大芝遺跡の発掘調査

遺跡の時代：縄文時代・古代～中世
所在地：日高郡日高川町佐井地内
調査の原因：県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備
調査期間：2024.05～2025.03
調査コード：24-29・017

はじめに

大芝遺跡は日高郡日高川町（旧中津村）佐井に所在する縄文時代の散布地として知られる遺跡である。県下第2位の面積を誇る日高平野に流れ込む日高川の中流域に位置し、大きく蛇行を繰り返す地点の日高川右岸の河岸段丘の一部が埋蔵文化財包蔵地となっている。遺跡は南北約320m、東西約160mの範囲に広がっており、本調査地は遺跡の中央部から北部にあたる。これまで本格的な発掘調査は実施されていなかった。調査地の現況は水田耕作地、道路及び農業用水路であり、調査面積は13,284.1㎡である。

今回の発掘調査は県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴うものであり、県教育委員会の確認調査では中世の遺構・遺物が確認されたことから、当該時期の遺構・遺物の出土が期待された。



大芝遺跡位置図 (S = 1/20,000)

調査の成果

発掘調査は調査区1～4に分けて実施した。調査の途中で中世の遺構の下に縄文時代の遺物を含む包含層及び遺構面が一部に遺存することが明らかとなり、県及び県教育委員会と協議の上、縄文時代の遺構面についても調査・記録することとなった。

調査では、大きくは古代から鎌倉・室町時代と考えられる遺物が出土する遺構が掘り込まれた中世の遺構面と、縄文時代後期の土器・石器が出土する遺構が掘り込まれた縄文時代の遺構面の2面が存在する。また、確認した遺構は総数2,000を超えるが、主なものとして中世の遺構としては土坑・溝・掘立柱建物跡・小穴、縄文時代の遺構としては土坑・竪穴建物跡・小穴を確認している。

第1遺構面（古代～中世）の遺構

第1遺構面で検出した主な遺構としては掘立柱建物跡、溝、土壇墓群がある。

掘立柱建物1は調査区4で検出した桁行6.8m、梁間5.0mの建物跡である。柱穴の間隔は約1.0～2.5mの総柱建物跡とみられ、中世の土師器が少量出土している。

土壇墓群は約19基確認した遺構群で、平面は0.5～0.8mの円形や楕円形で深さは0.2～0.6mである。遺構の上部には0.1～0.5m程度の扁平な川原石などを置く、もしくは積み上げており、これらの川原石の多くは土坑の中心に向かってやや落ち込んでいる様相であるものが多い。出土遺物は少ないが、土師器・瓦器・鉄製短刀・繊維製品などがある。現在のところ人骨などは確認していないが、遺構の形状や川原石の出土状況などを踏まえて土壇墓であると考えられる。

その他、全長60.0mを超える溝なども確認しており、集落や墓域などを区画する溝であった可能性が高い。

第2遺構面（縄文時代）の遺構

調査区2及び4の一部では中世の遺構の下に縄文時代の遺物を含む遺構が掘り込まれていることが明らかとなった。出土した遺物から縄文時代後期（約4,400年前）のものと見られる。第2遺構面で確認した主な遺構は、土坑・竪穴建物跡・小穴があり、特に調査区2では複数の竪穴建物跡が隣接する日高川に沿って南北方向に密集して建てられた痕跡が明らかとなった。現状では19棟の竪穴建物跡を確認しており、これは県内の縄文時代の集落から見つかった竪穴建物跡の数としては最多である。これらの建物跡は概ね北から南にむかって順に構築されており、複数の建物跡が重なって確認されたことから、極めて限られた範囲に何度も竪穴建物を建て直していたことが明らかになった。また、

竪穴建物跡の内部には炉跡とみられる被熱した痕跡の残る土坑や、建物を支える柱穴が多数確認されている。

出土した遺物は地元で製作されたと見られる縄文土器のほか、東海地方（岐阜県北部）や関東地方で出土する土器も確認されている。また、出土した石器には狩猟で使用する石鏃^{せきぞく}や石錐、魚を捕るための網の重りである石錘などがある。石皿や叩き石を除く石器の多くはサヌカイトと呼ばれる石材から作られており、この石材は二上山産（大阪府、奈良県境）や金山産（香川県）とみられることから、縄文時代に大芝遺跡で生活していた人々は、様々な地域の人々と交流を持っていたことが明らかになった。（濱崎 範子）



2-1区遺構 381（土壙墓）石出土状況（北から）



2-2区遺構 2239（土坑）縄文土器出土状況（西から）



2-1区遺構 381（土壙墓）出土鉄器（短刀）



2区縄文時代の竪穴建物跡群（北東から）

岩橋千塚古墳群前山B地区の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代後期末～古代
所在地：和歌山市岩橋地内
調査の原因：紀伊風土記の丘再編整備事業
調査期間：2025.02
調査コード：24-01・185

はじめに

岩橋千塚古墳群前山B地区は、和歌山市の中央部に位置する。市域の北側を大断層である中央構造線が東西に横断し、断層の北側は内帯、南側は外帯に分けられる。紀の川はこの中央構造線に沿って西流し、市西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川の北側には大阪府との府県境界となる和泉山脈が東西に延びており、南側には三波川変成帯が広がっているが長年の浸食により和歌山平野には大小の山塊が点在している。岩橋千塚古墳群もそれらの山塊及びその周囲に展開している。本調査は和歌山県立考古民俗博物館（仮称）建設に伴うものであり、調査面積は約120.2㎡である。

調査の成果

基本層序は、第0層：紀伊風土記の丘造成に際し、造成された盛土層、第1～3層：近現代の耕作土、第4層：近世以降に築造された石積みの裏込め、第5層：古代以前の自然堆積土、第6層：地山由来の自然堆積土で、調査対象地における基盤層であり、遺構面である。第0層は2m以上堆積造成されており、昭和40年



調査区の位置図 (S=1/10,000)

代の紀伊風土記の丘開園時に大規模に盛土されていることがうかがえる。第0層からは須恵器高坏1点が出土した。第6層の直上に堆積していた第3層からは古代の土師器皿が出土した。第6層と同レベルで検出した第4層について、土層断面から第6層が第4層に切られている状況を確認したため、第4層は石積みの裏込めであると判断した。第4層からは近世の施釉陶器が出土していることから、石積みは近世以降に築造されたと考えられる。旧地形は南東から北西に向かって下っており、谷状に落ち込んでいる範囲において、古代以前の第5層が堆積したと考えられる。第6層上面で溝2条（遺構2・3）、土坑1基（遺構4）及びピット1基（遺構1）を検出した。溝2は調査区中央部から南半部に位置する東西方向の溝である。検出規模は長さ約5.1m、幅約0.14～0.9m、深さ0.1～0.4mである。溝3は調査区中央部から北半部において、溝2に切り込む形で検出した。検出規模は長さ約3.4m、幅約0.14～1.4m、深さ0.04～0.3mである。いずれの遺構からも遺物は出土していないが、検出位置から、溝2は事前の試掘確認調査で確認された弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の溝の続きである可能性がある（和歌山県教育委員会2023）。それ以外は古代以前の遺構と考えられる。出土遺物は須恵器高坏、土師器皿、陶磁器等である。（石丸 彩）



完掘状況（南東から）

【参考文献】

和歌山県教育委員会2023「岩橋千塚古墳群前山A地区・前山B地区、岩橋Ⅱ遺跡 和歌山県立考古民俗博物館（仮称）建設に伴う第2次～第5次試掘確認調査」『和歌山県埋蔵文化財調査年報一令和3年度一』

和田岩坪遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代後期～中世
所在地：和歌山市和田地内
調査の原因：名草排水機場建設工事
整理期間：2024.04～2025.01
調査コード：22-01・302

はじめに

令和4・5年度の発掘調査で出土した遺物等の整理業務として、出土遺物（土器444点）の実測、出土遺物の図面のトレース、出土遺物の写真撮影、デジタル写真の現像作業、組版を実施し、発掘調査報告書を刊行した。

整理業務の内容

出土遺物は、弥生土器、土師器、ミニチュア土器、製塩土器、真蛸壺、鳥形土器、須恵器、瓦器等中世の土器、土製品、石製品、鉄製品、木製品、木質遺物、

骨等の自然遺体等、収納コンテナ（28ℓ/箱）で133箱である。

出土遺物の洗浄、注記作業、出土遺物の登録、土器の接合・補強及び復元作業については、令和4・5年度に実施したため、それ以後の作業を行った。出土遺物の実測、遺構図・土層図及び遺物実測図のデジタルトレース、出土遺物の写真撮影とその組版作業を行った。また、遺物観察表、遺構台帳等を作成し、これらの作業の成果を基に原稿を執筆し、令和7年1月に発掘調査報告書を刊行した。（石丸 彩）



出土遺物 実測作業

前田遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：鎌倉時代～室町時代
所在地：日高郡日高川町佐井地内
調査の原因：ほ場整備事業
整理期間：2024.06～2024.11
調査コード：23-29・016

はじめに

前田遺跡は、日高平野を西流する日高川の中流域において大きく蛇行するT.P.+68 mほどの左岸の河岸段丘上に位置する遺跡である。

本事業は、令和5年度に実施した県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う前田遺跡発掘調査（調査対象地867.74㎡）についての整理業務である。

整理業務の内容

出土遺物は、土師器、黒色土器、瓦器、瓦質土

器、中国製青磁碗、須恵質土器、石製品、土製品等、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）で3箱である。

出土遺物の洗浄・注記作業については、発掘調査期間中に応急整理として実施したため、それ以後の作業を行った。出土遺物の登録、土器の接合・補強及び復元作業、出土遺物の実測、遺構図・土層図及び遺物実測図のデジタルトレース、出土遺物の写真撮影とその組版作業を行った。また、遺物観察表、遺構台帳等を作成し、これらの作業の成果を基に原稿を執筆し、11月に発掘調査報告書を刊行した。（田之上 裕子）



遺構図デジタルトレース作業

東照宮石垣解体に伴う発掘調査等支援

遺跡の名称：近世～近代
所在地：和歌山市和歌浦西地内
調査の原因：石垣解体
支援期間：2025.02～2025.03

はじめに

国指定名勝和歌の浦・県指定史跡和歌の浦の一部である東照宮本殿の唐門・瑞垣を載せる石垣から連続する石垣の一部が崩落したため、石垣の解体修理が計画され、石垣の解体前及び解体中の調査が必要となった。そこで、公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が和歌山市の依頼を受けて東照宮石垣解体に伴う発掘調査を実施することとなり、その発掘調査に係る支援業務を実施した。

業務の内容

石垣解体前に石垣上面部分において幅 2.0 m の範囲で発掘調査を実施した。また、石垣 1 段目解体後も石垣上面部分において調査を実施した。さらに、石垣 3 段目解体時に石垣正面の精査を実施した。

調査の成果

石垣上面の調査では、表土及び根攪乱を掘削すると黄褐色土の盛土が全面に確認でき、石垣構築時には石垣上面の内側は盛土であったことがわかった。また、

石垣は奥行が短く裏込めがない状態であった。石垣の構築状況や土層断面の観察の結果、石垣は大正時代の整備時に積まれたものである可能性が高いと判断される。

その後、石垣 1 段目を解体後に 2 段目上面の高さまで掘り下げたところ、石垣の内側に切石を中心とした石材で積まれた石積みを確認できた。この石積みは、正面からみれば石垣状、上面からみれば敷石状に積まれているが、石材の大きさも統一感がなく、小さい割石で構築される部分もあること、また、石垣南東部分では正面～側面の石垣に合わせた形で内側に石が積まれていることから、古い前身の石垣ではなく、正面の石垣と一体として構築されたものと考えられる。ただし、加工された切石を使用していることから、石垣構築時に東照宮の敷地にあった切石を石垣の内部構造材として利用した可能性が考えられる。

調査範囲の西端部分の本殿を囲う瑞垣沿いは、切石ではなく丸石が多く認められ、黄褐色の盛土でなく黒褐色土の締まりのない土層であり、瑞垣に係る施工時の埋土（掘方）である可能性がある。

出土遺物は、表土及び根攪乱掘削時には近世以降の瓦が多量に出土したが、黄褐色の盛土からは少数の瓦片が含まれるのみである。盛土からは時期が判明する土器・陶磁器類は出土していない。出土した瓦は、『紀伊國名所圖會』において当該地周辺に描かれ、近代までに解体された三重塔に関わるものである可能性がある。（仲原 知之）



石垣 1 段目解体後上面（南西から）



石垣 3 段目解体後正面（南東から）

垣内遺跡の発掘調査支援

遺跡の時代：縄文時代、中世
所在地：日高郡日高川町船津地内
調査の原因：集会所建築工事
支援期間：2024.08～2024.09

はじめに

日高川町教育委員会及び御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会が実施する垣内遺跡発掘調査の支援を行った。

垣内遺跡は日高川右岸の丘陵裾に展開する縄文時代の遺跡である。

調査の成果

技術職員は実績報告書作成及び現地作業の支援に約5日間従事した。また、調査補助員及び発掘作業員を5日間雇用し、人力掘削作業や実測図作成補助等の作業を行った。

調査の結果、縄文時代及び中世のピット等遺構を検出し、遺物は縄文土器や瓦器等が出土した。

(石丸 彩)



遺構実測図作成状況

三軒茶屋跡の発掘調査等支援

遺跡の時代：近世～近代
所在地：田辺市本宮町大居地内
調査の原因：遺跡の内容確認
支援期間：2025.01～2025.03

はじめに

田辺市教育委員会が実施する三軒茶屋跡発掘調査等の支援を行った。

三軒茶屋跡は国指定史跡熊野参詣道中辺路沿いに所在していたとされる茶屋跡である。

調査の成果

技術職員は労務管理、実績報告書作成及び現地作業の支援に約10日間従事した。また、調査補助員を延べ6日間雇用し、掘削・精査作業や実測図作成等の

作業を実施した。

調査の結果、高まり状遺構や溝状の集石遺構等を検出し、幕末以降の陶磁器等が出土した。(石丸 彩)



人力掘削状況

立野遺跡の試掘確認調査等支援

遺跡の時代：弥生時代

所在地：西牟婁郡すさみ町周参見地内

調査の原因：すさみ町第2庁舎建設工事

調査期間：2024.04～2024.05

調査コード：24-41・022

はじめに

すさみ町第2庁舎建設に伴い、県教育委員会が実施する、立野遺跡試掘確認調査（対象面積約6,000㎡）を当センターが支援した。

すさみ町は、紀伊半島の南西部に位置し、北側は紀伊山地を背にして、西側と北側は同郡白浜町に、東側は東牟婁郡串本町と古座川町に接し、南側は太平洋に面している。

立野遺跡は、周参見川下流域に位置し、河口から約2.5km遡った低地部にある。現在の周参見川は立野地区の北を流れるが、古くは東の丘陵と西の丘陵が途切れた部分にあたる低地部を周参見川及びその支流が南流していたと思われる。立野地区は周参見川が流れ込み蛇行した後形成された平野と考えられる。

既往の調査

立野遺跡では、1976年に水田の深掘り中に東の丘陵裾部で須恵器・敲石が採取され、その周辺でも弥生土器・土師器・須恵器が発見されたことにより、弥生時代から古墳時代の散布地として周知されており、調査例もなく遺跡の内容は不明のままであったが、2010年以降、7回の発掘調査が実施されている。



立野遺跡確認調査地（西から）

第1～3次調査では、水田区画・杭列・自然流路等の遺構が検出されている。特に、第1次調査では、弥生時代前期の南北方向の自然流路から木材等とともに土器・木製品・石器等が大量に出土した。

今回の試掘確認調査地に近接する、第4次調査は第1～3次調査の北側で調査しており、調査地の南側は遺構面が2面、中央から北側は遺構面が1面であった。

第4次調査の中央西側で掘立柱建物跡が確認された。規模は南北1間×東西2間の小規模な建物跡で、柱穴掘方は楕円形で、規模は約0.4～0.7m、残存の深さは0.08～0.22mであり、太さ0.12～0.16mの柱根が遺存しているものもあった。棟持柱と考えられる柱穴には礎石のみ遺存し、柱穴掘方から須恵器坏身が出土したことから、7世紀代の建物跡と考えられる。

調査地の南半部と北半部の東側については、明瞭な遺構は検出せず、旧河道（自然流路）が網の目状に北から南西方向に流れていたことが確認された。調査地の西側で東西方向の溝を検出し、弥生時代中期の土器片が出土した。調査地中央部でも東西方向の溝を確認した。西側の微高地上の居住域からの排水か、水稻耕作の用水目的として掘削されたものと思われる。調査地北側の土壌墓からは骨片と石鏃、礫石器がまとめて出土した。石器から、弥生時代前期あるいは中期の時期が考えられる。

調査の成果

今回の試掘確認調査では、1～4区（2m×10m）、



既往の調査範囲

（2021年「立野遺跡—町道立野中道線改良工事に伴う発掘調査報告書—」（公財）和歌山県文化財センター発行 図2に加筆）

5～9区（2m×5m）の調査区を設定し、機械掘削で第1～3層（中世後半から近世の土壌化層）まで掘り下げ、遺構の有無を確認のち、第4層以下を第8層地山層上面まで各層で遺構の有無を確認しつつ、掘削した。第5～7層は、弥生時代の遺物包含層であり、遺構は認められなかった。

1・3・5・8・9区において、地山である第8層上面で溝2条、土坑等を確認した。溝については、第4次調査で確認された南北方向の溝の延長と思われる。試掘確認調査のため、遺構の掘削は行わず、埋め戻して現地保存に努めた。



1区 第8層上面（地山） 遺構検出状況（北東から）



3区 第8層上面（地山） 遺構検出状況（南から）



9区 第8層上面（地山） 遺構検出状況（東から）

業務の概要

立野遺跡の試掘確認調査に伴い、下記に示す記録作業等の支援を行なった。

遺構番号は、遺構種類にかかわらず通し番号で表し、遺構番号の後ろには必要に応じてその性格を表す名称を付した。出土遺物については、調査区ごとに、層位別に取り上げ、その単位ごとに遺物登録番号を付した。

記録については、写真撮影と実測図面作成を行なった。写真撮影は、記録用の35mmフルサイズ一眼レフデジタルカメラを使用し、デジタル画像のリネーム及びRAW現像を行った。デジタル画像データは全てファイルごとに内容を記載して保存している。記録図面は、調査区ごとに縮尺1:20の遺構平面図及び遺存状態の良好な壁面に対して土層断面図等を記録として作成し、デジタルトレースを実施した。

出土遺物応急整理として、出土遺物の総合的な把握と調査報告書作成までのコンテナ収納及び管理を目的とした出土遺物台帳の作成作業と出土遺物の洗浄作業を行った。この段階では出土遺物の詳細な内容登録までは行っていない。

まとめ

今回の試掘確認調査では、第8層上面（地山）で第4次発掘調査において確認された、弥生時代後期の南北方向の2条の溝の延長とその他のピット・土坑等の遺構を確認した。多くの調査区で多少の厚さに違いはあれ、第3層土壌化層とその下の弥生時代の遺物包含層が確認された。その遺物包含層から遺物収納コンテナ（28ℓ / 箱）1箱分の遺物が出土した。

今回の試掘確認調査の結果と調査対象地周辺の地形に鑑みると、遺構は調査対象地内の南東の6区から同北西の8区まで展開したと想定でき、調査対象地の北側に迫る丘陵裾周辺には、遺構が展開した時期である弥生時代にも自然流路が存在していたと想定できる。

遺構展開範囲の一部は立野遺跡の範囲外に相当することから、県教育委員会により周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が変更された。（田之上 裕子）

県指定史跡中世行幸啓御泊所跡の 確認調査支援

遺跡の時代：中世～近世

所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山地内

調査の原因：那智大社職員寮建設

支援期間：2025.03

はじめに

那智勝浦町教育委員会が実施する県指定史跡中世行幸啓御泊所跡の確認調査等及び出土遺物等整理業務への支援を行った。

支援の内容は確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削及び賃金職員の労務管理等と出土遺物等整理における洗浄、注記作業である。

業務は那智勝浦町教育委員会及び県教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

確認調査等の支援

技術職員は延べ約10日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理、現地指示等である。調査補助員は延べ4日間雇用し、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測、現場撮影や測定の補助等を実施した。

出土遺物等整理の支援

整理事業員延べ4日間雇用し、確認調査により出土した遺物の水洗、注記作業の業務支援を行った。

調査成果の概要

(1) 調査方法

確認調査は、幅0.8m～3.0m、長さ1.0～4.2mのトレンチを7箇所設定して行った。発掘は機械及び人力により行い、各層上面で人力による精査を行い、遺構・遺物が確認されなかった場合は機械または人力で掘り下げを行った。

(2) 基本層序

基本層序は次の5層に大別し、枝番により細分し

た。

第0層：現代造成土。

第1層：第0層より一段階前の現代造成土である。1トレンチのみでみられる。

第2層：暗灰黄色～黄褐色を呈する中粒砂～細粒砂層である。近世の遺物包含層あるいは近世の遺構面である。

第3層：黄褐色を呈する中粒砂層である。近世の池の基盤層である可能性がある。5トレンチのみでみられる。

第4層：黒褐色～灰黄褐色を呈する中粒砂～細粒砂層である。中世の遺物包含層あるいは中世の遺構面である。

(3) 調査の成果

1トレンチ 先行して実施された樹木除根時の掘削部分を利用して調査区とし、平面形は不整形である。掘削の結果、第0層の直下で第1層がみられた。土層断面の検討の結果、第1層が堆積した時期までは旧地形に沿って東側が下がっていたことがわかる。また、第1層を造成する際、土が流出しないよう低い地点に石を充填させた上に盛土していることがうかがえる。第0層、第1層の堆積状況から、調査地が2時期に渡って敷地を拡張していることがわかった。

現状地盤面から約0.9mの深さで第4層がみられた。第4層に中世の遺物を含んでおり、その上面で土坑1基を検出した。この遺構の時期について、西に約5mの場所に設定した5トレンチにおいて、同レベルで中世の遺構面を確認したことから、1トレンチの土坑についても中世の遺構である可能性が高い。

2トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤面から約0.2mの深さで第4層がみられた。第4層には中世の遺物を含んでおり、その上面で土坑2基及び溝状遺構1条を検出した。トレンチの北端部では、礎石の可能性のある大型の石を検出した。

3トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤面から約0.4mの深さで第4層がみられた。掘削時、第4-1層の時期が不明であったため、下層確認をしたところ、第4-1層以下は中世の遺物包含層及び遺構面であることが判明した。第4-1層上面では、複数の土坑、第4-3層上面では複数の土坑や溝状遺構を

検出した。なお、このトレンチにおいて確認した遺構面は、第4-1層及び第4-3層の2面である。

4トレンチ 掘削の結果、第0-2層には炭化物を多量に含んでおり、当時の建物が火事に遭った可能性がある。第0層の直下、現状地盤から約0.4mの深さで第2層がみられた。下層確認の結果、第2層は近世の遺物を含んでおり、その上面で複数の礎石を検出した。第2層の下では、中世の遺物包含層である第4層の堆積を確認した。

5トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤から約0.1mの深さで第2・3層がみられた。第3層は近世の遺物包含層であり、締固められてることから、近世の池の基盤層である可能性がある。その上には第2層が堆積しており、近世に埋没したと考えられる。第3層上面では庭石の可能性のある大型の石を複数検出した。



人力掘削状況（南東から）

6トレンチ 掘削の結果、第0-4層～0-6層は炭化物や焼土を含んでおり、当時の建物が火災に遭った可能性がある。第0層の直下、現状地盤から約0.2mの深さで第2層がみられた。第2層は近世の遺物を含んでおり、その上面で土坑3基及び礎石の可能性のある石を複数検出した。

7トレンチ 掘削の結果、第0層の直下、現状地盤から約0.4mの深さで第4層がみられた。第4層は中世の遺物を含んでおり、第4-3層上面で礎石の可能性のある石を複数検出した。（石丸 彩）



1トレンチ 遺構検出状況（北西から）



2トレンチ 遺構検出状況（北から）



5トレンチ 遺構検出状況（北東から）

県内遺跡発掘調査等事業に伴う 確認調査等支援

遺跡の名称：原野遺跡、小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡、井ノ口遺跡、山田北山遺跡、坊の原寺院、山口廃寺跡、東牟婁郡古座川町高池地区、東牟婁郡古座川町中湊地区

所在地：海南市原野地内、日高郡日高町小浦地内、和歌山市井ノ口地内、有田郡湯浅町山田地内、海草郡紀美野町動木、和歌山市谷地内、東牟婁郡古座川町高池地区、東牟婁郡古座川町中湊地区

調査期間：2024.10～2025.03

はじめに

県教育委員会が実施する県内遺跡の試掘確認調査等事業への支援を行った。

支援の内容は試掘確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削及び賃金職員の労務管理等である。

業務は和歌山県教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

確認調査等の支援

県内各地の遺跡及び遺物散布地（原野遺跡、小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡、井ノ口遺跡、山田北山遺跡、坊の原寺院、山口廃寺跡、東牟婁郡古座川町高池地区、東牟婁郡古座川町中湊地区）において、調査区の壁面清掃、遺物包含層の掘削、遺構面の精査及び遺構掘削などの人力掘削作業をおこなった。

確認調査等の支援において、技術職員は延べ約8日間業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理、現地指示等である。調査補助員は延べ約16日間雇用し、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測、現場撮影や測量の補助などを実施した。

いずれの調査においても、遺構は確認されなかった。
(石丸 彩)



井ノ口遺跡確認調査 平面図作成作業



山口廃寺跡工事立会調査 人力掘削状況



山口廃寺跡工事立会調査 土層断面図作成作業



遺物散布地（古座川町中湊地区）試掘確認調査 完掘状況

紀美野町内遺跡試掘確認調査及び 工事立会調査等支援

遺跡の名称：下佐々Ⅰ遺跡
所在地：海草郡紀美野町下佐々地内
支援期間：2024.10～2025.03

はじめに

紀美野町教育委員会が実施する紀美野町内遺跡工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは下佐々Ⅰ遺跡の工事立会調査である。

下佐々Ⅰ遺跡は貴志川右岸の河岸段丘に展開する縄文土器等の散布地であるが、過去に実施された工事立会調査などから、中世の遺構も確認されている。

調査の成果

技術職員は実績報告書作成及び現地作業の支援に約4日間従事し、精査作業や実測図作成等の作業を実施した。

調査の結果、自然堆積土層の上面で中世の杭列と考えられる遺構を検出した。
(石丸 彩)



下佐々Ⅰ遺跡工事立会 完掘状況（南東から）

湯浅町内遺跡工事立会調査等支援

遺跡の名称：山田北山遺跡
所在地：有田郡湯浅町山田地内
支援期間：2025.03

はじめに

湯浅町教育委員会が実施する湯浅町内遺跡工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは山田北山遺跡の工事立会である。

山田北山遺跡は湯浅町を横断する山田川中流域の丘陵裾に展開する室町時代の散布地として知られる遺跡で、これまで鉄槍、瓦器、明銭が出土している。

調査の成果

支援に当たって技術職員は現地での人力掘削や記録作業、実績報告書作成に約1日間従事した。

工事立会調査においては、工事で掘削する深度で遺構や遺物の有無などを確認し、土層断面図や写真撮影などを行った。
(濱崎 範子)



山田北山遺跡工事立会 完掘状況（西から）

田辺市内遺跡確認調査等支援

遺跡の名称：浜田古墳、八丁田圃遺跡
所在地：田辺市湊地内（浜田古墳）
同市秋津町地内（八丁田圃遺跡）
支援期間：2024.05～2025.03

はじめに

田辺市教育委員会が実施する確認調査等の支援を行った。支援を行ったのは浜田古墳及び八丁田圃遺跡の確認調査である。

浜田古墳は二つ池南西側の丘陵裾に立地する古墳とされる。八丁田圃遺跡は右会津川と左会津川の間形成された沖積地に展開する縄文土器や瓦器等の散布地である。

調査の成果

技術職員は実績報告書作成及び現地作業の支援に約7日間従事し、遺構検出や実測図作成作業を行った。

調査の結果、遺構は確認されなかった。（石丸 彩）



八丁田圃遺跡確認調査 1 トレンチ完掘状況（北西から）



八丁田圃遺跡確認調査 3 トレンチ完掘状況（南東から）

上富田町内遺跡試掘確認調査及び 工事立会調査等支援

遺跡の名称：射矢の谷遺跡、中ノ岡遺跡、一瀬王子跡、小山遺跡
所在地：西牟婁郡上富田町岡地内（射矢の谷遺跡）
同町市ノ瀬地内（中ノ岡遺跡、一瀬王子跡、小山遺跡）
支援期間：2024.07～2025.03

はじめに

上富田町教育委員会が実施する工事立会調査等の支援を行った。支援を行ったのは射矢の谷遺跡、中ノ岡遺跡、一瀬王子跡及び小山遺跡の工事立会調査である。

中ノ岡遺跡は岡川左岸の河岸段丘に展開する弥生土器の散布地である。中ノ岡遺跡は富田川左岸の河岸段丘に展開する弥生土器の散布地である。一瀬王子跡は富田川左岸の丘陵裾に位置する王子跡である。小山遺跡は富田川左岸の丘陵裾に展開す

る弥生土器の散布地である。

調査の成果

技術職員は実績報告書作成及び現地作業の支援に約17日間従事し、精査作業や実測図作成等の作業を実施した。

調査の結果、いずれの調査においても遺構は確認されなかった。

（石丸 彩）



小山遺跡工事立会調査 完掘状況（西から）

八反田遺跡の第1次出土遺物等整理支援

遺跡の時代：弥生時代中期～古墳時代前期
所在地：新宮市佐野・木ノ川地内
調査の原因：市道比奈久保線交差点改良工事
整理期間：2024.04～2025.03
調査コード：HTD23

はじめに

八反田遺跡は、新宮市佐野・木ノ川に存在する遺跡である。那智勝浦町との境界に近い、佐野川と木ノ川の沖積平野にあり、2つの川の合流地点に位置する。今回の調査地は遺跡の北西部にあたり、既往の調査で弥生時代の遺構や出土遺物が確認されている。

新宮市の市道比奈久保線交差点改良工事に伴い、新宮市教育委員会が実施した発掘調査（調査対象面積 361.0㎡）の技術支援を行った。

今回の調査では、遺構面は3面を確認し、弥生時代中期から弥生時代後期、古墳時代前期までの竪穴建物跡や掘立柱建物跡、柱穴、土坑、溝、落込み等の遺構を確認した。

整理業務の内容

出土遺物は、弥生土器、土師器、石器、石製品、木製品、土製品等で遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）92箱である。各遺構、各層から弥生時代中期から後期の甕、壺、高坏、鉢等の弥生土器、石鏃や石斧等の石器・石製品、古墳時代前期の二重口縁壺、小型丸底土器等の土師器が出土した。土器の中には、弥生時代中期の大型壺、古墳時代前期の土師器鍋があり、また、伊勢湾沿岸、近江、伊予、吉備等の他地域からの搬入土器もみられた。

整理作業として、遺物の登録、注記、土器の接合・補強・復元作業、遺物の実測、遺構図・土層図と一部の遺物実測図のデジタルトレース、遺物の写真撮影、遺構台帳や遺物観察表の作成等を行なった。

接合作業は、各遺構、各遺物包含層、検出した遺構面で出土した遺物ごとで行い、石膏等の補填

材で補強作業を行ったのち、土器、石器、石製品、木製品、土製品等の遺物実測を行った。土器の復元作業ののち、35mmフルサイズ一眼レフデジタルカメラにより遺物撮影を実施した。撮影アングルは基本的に横位置とし、必要に応じて俯瞰でも撮影した。

令和7年度に第2次整理支援業務として、遺物実測図のデジタルトレース、原稿執筆、挿図や写真の組版等を行い、令和8年2月に発掘調査報告書を刊行する予定である。（田之上 裕子）



遺構図のデジタルトレース作業



土器の復元作業



大型壺の実測作業

史跡道成寺境内保存活用計画策定の部分支援

文化財名称：史跡 道成寺境内
所在地：日高郡日高川町鐘巻
概要：計画策定支援
支援期間：2024.09～2025.03

はじめに

史跡道成寺境内は、中世から近世の伽藍が顕在化している一方で、多くの建造物や仏像が存在し、また、創建当時の古代の伽藍配置が発掘調査によって明らかになっている等、各時代における構成要素が混在している。これらの把握や史跡の価値の再確認を行い、今後の適切な管理活用及び整備を行うために、宗教法人道成寺が令和4～6年度に保存活用計画策定事業を実施した。本業務は、道成寺から委託業務を受託した株式会社都市景観設計より歴史や文化財に関する項目の素案検討・執筆等の部分支援業務の委託を受けて実施した。

業務の内容

業務は、史跡指定範囲及びその周辺を対象とした保存活用計画案のうち史跡及び周辺の石造物等の文化財調査、文化財等の保存に関する項目の案を作成した。これらの計画案は、令和6年12月5日に開催された史跡道成寺境内保存活用計画策定委員会において、検討が行われた。なお、この委員会において、事前打合せへの参加及び運営補助等の支援を行った。委員会や関係機関の検討を経て、令和7年3月に保存活用計画書が刊行された。（仲原 知之）



保存活用計画策定委員会の様子（道成寺）

高野町内石造文化財の調査支援

文化財名称：高野町内石造文化財
所在地：伊都郡高野町杖ヶ藪ほか
概要：石造文化財所在調査
支援期間：2024.10～2025.03

はじめに

高野町が実施する文化財保存活用地域計画の策定に必要な石造文化財調査において、現地調査の実施、石造文化財所在位置図作成及び石造文化財台帳作成の業務支援を実施した。

業務の内容

高野山内の伽藍地区及び高野山内以外の杖ヶ藪・下筒香・中筒香・上筒香地区などの施設や住居等の敷地内を除いた場所を対象として令和7年3月に4日間にわたって石造文化財の所在把握を目的とした踏査を実施した。

時代の新旧を問わず石造文化財の所在を確認した場合は、所在場所・寸法の計測・銘文の判読・時期の把握・写真撮影等の記録作業を行った。これらの記録は、12500分の1の地形図に石造文化財の位置をプロットした図面を作成するとともに、石造文化財台帳として石造文化財の一覧表の作成を行なった。これらの成果はデジタルデータで高野町教育委員会へ納入した。なお、今回の調査においては、伽藍地区26箇所・171点、高野山外12箇所・80点の石造文化財が確認された。（仲原 知之）



調査風景（史跡金剛峯寺境内伽藍地区）

国宝 金剛峯寺不動堂の保存修理

建築年代：鎌倉時代

所在地：伊都郡高野町高野山

事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理

事業期間：2023.11～2025.03

建物の概要

金剛峯寺不動堂は、バランスのとれた優美な檜皮屋根の姿が印象的な建物である。かつて高野山内の一心院谷の寺院「一心院」の建物であったが、明治41年(1908)に壇上伽藍に隣接する現在地に移築され、昭和27年(1952)に国宝に指定された。平成7年(1995)から平成11年(1999)にかけて解体修理が行われ、修理時に行った木材の年輪年代調査などから、鎌倉時代後期の建立と推察されている。

保存修理の内容

令和5年度からの2か年度事業として、屋根葺替、塗装修理、部分修理を実施した。初年度は檜皮材の調達と拵え、作業用足場と素屋根の組立、旧檜皮屋根の解体を行い、本年度は檜皮屋根の葺き直し、化粧野地板の胡粉塗塗り直し、土間仕上面の補修を行った。

高野山内の湿潤な環境下にあり、南面に蓮池や杉の大木が隣接していたことから、修理前の屋根面には苔や植物が繁茂していた。そのため屋根下地の木部への腐朽も懸念されたが、木部には水分への耐力が高い檜材が使われていたことに加え平成期の解体修理時に



写真2 屋根面の腐朽状況（南西面）



写真1 修理前の金剛峯寺不動堂（北東面）

防火対策として張り込まれた野地面の石膏板により、植物が檜皮厚を超えて根を深く張ることを防ぎ、屋根面からの湿気が遮断されていたため、小屋組が健全に保たれたものと判断できた。軒先周辺の木舞や呼び込み板では蒸れ腐れが生じていたため、腐朽箇所のみ取替えを行った。各面の軒付の檜皮材に顕著な腐朽や欠損は認められなかったが、樹木が隣接する西面、南面の中央付近では常時水分が廻った状況となり、裏板の一部では軒積と取り合う上面から内部に及んで腐朽箇所が確認された。このため、必要な範囲の軒積の積み替えと併せて、計画変更の承認を得たうえで裏板の取替えを行った。品軒と取り合う箱棟の障泥板や鬼板の底面はいずれも良好な状態であり、北面と南面の妻部分の破風板下ではドレンチャーの配管を存置したまま平葺の施工が可能であることが確認できたため、今回の事業では箱棟とドレンチャーは解体しない方針とした。以上の施工範囲や事業費の変更に伴い、工期を5ヶ月間延長した。

平葺の施工は6月より開始し、地元高野山の職人を親方として近隣の吉野山の職人が協力し、3人の手により約5ヶ月をかけて葺き上げた。親方が適切に



写真3 屋根面の解体状況（北西面）



写真4 檜皮葺(箕甲)の施工状況

施工を管理することにより、平葺面は広範囲にわたって平滑さを確保でき、隅背や箕甲に用いられる隅皮の納まりは従来高野山で葺かれてきた仕様を踏襲し、地域的な特徴を地元の職方の手により適切に継承することができた。

塗装工事では、塗材の飛散や屋根工事で使用する水などの影響を受けないために、養生材を設置したのち、化粧野地板の胡粉塗の掻き落としを行った。面戸板際などでは、前回の解体修理時の塗装下に旧塗装の痕跡が確認されたため、今回の塗装工事の仕上がりに影響が出ない範囲では、可能な限り旧塗装の痕跡を存置するよう施工を進めた。前回の解体修理時には事前に塗装を行い、十分な乾燥を確保したうえで建物に取り付けていたが、今回は現地での施工となり状況が異なるため、暴露試験を行ったうえで胡粉塗の仕様を検討した。在来の仕様のほか、鉛白や合成樹脂を添加した仕様で作成した塗料を塗布した手板を作成し、建物と同じ環境下に置いて経過観察を行ったが、いずれの手板にカビの発生は認められなかった。修理前にも顕著なカビの発生は認められなかったが、今回は防カビ対策を主眼として胡粉を溶着材で練った塗料へ鉛白を混入するとともに、木地への影響が生じないよう配慮した濃度で合成樹脂を混入することとした。塗り上げ



写真6 化粧野地胡粉塗 上塗り施工状況



写真5 屋根葺替完了・素屋根解体状況(北東面)

はカビの発生防止を考慮して梅雨明けの7月後半から着手し、木部表面への木地固め、下塗り、上塗りの順に施工を進めた。木地が透けるなど、塗装の仕上がりが不十分な箇所を随時確認し、必要に応じて塗り重ねを実施したため、施工ムラの無い良好な塗面が確保できた。

左官工事では、風化が進んでいた土間仕上面を全て解体し、下地に不具合がないことを確認したのち、下地固め、均し、たたき締め順に施工を進めた。令和6年末に施工は完了したが、冬期の積雪と屋根面の融雪に伴う落水により縁外部のたたき仕上げが緩み、見切石との取り合い部分で仕上面の割れが認められたため、3月下旬に再度仕上面の均しとたたき締めを行い、全ての工事が完了した。

事業期間中には、世界遺産登録20周年記念として金剛峯寺・(公財)高野山文化財保存会が主催した小学生を中心とした修理見学会において、修理事業の解説や職人による平葺の実演等を行った。また、高野山を訪れる外国人観光客に対しても、不動堂での修理事業や伝統技術について関心を抱いてもらえるよう、日本語版と英語版の事業紹介用看板を設置して情報発信を行った。(野田 達志)



写真7 土間仕上面 たたき締め施工状況

重要文化財 三郷八幡神社本殿の保存修理

建築年代：永禄2年（1559）

所在地：海南省下津町黒田

事業の種類：屋根葺替修理、塗装修理、部分修理

事業期間：2024.06～2025.09

黒田・丁・丸田の3地区の鎮守社である三郷八幡神社では、令和6年度からの2カ年計画で、本殿の屋根葺替・塗装修理を実施している。

本殿は、江戸時代前半の修理記録は乏しいものの、江戸後期には大掛かりな修理が行われたことが知られる。昭和19年に国宝（当時）の指定を受け、同35年度に解体修理が行われた。以降は平成3年度に檜皮屋根の葺き替えと彩色部の剥落止め等の修理、同11～12年度には防災設備工事が行われて来た。今回修理では、施工から30余年以上が経過し摩耗した屋根面、60余年以上が経過し褪色・剥落が進んだ塗装・彩色面、と社殿外部の全面的な補修を行う。

初年度は檜皮屋根の葺き替え作業を中心に、塗装・彩色の修理に向けて仕様等の確認・記録作業や棟まわりの銅板包み補修等を行った。施工時には、野小舞（檜皮屋根の下地材）に江戸時代後期からの部材が半分ほど再利用されていたり（写真2）、現状とは図柄や範囲が異なる彩色の痕跡なども見つかった（写真5）、建物の変遷や昭和修理の様相を垣間見ることでもできた。とりわけ古い彩色痕跡に関しては、その配置や文様構成等を可能な限り調査・記録する作業を、計画変更申請を経て追加実施する運びとなった。（下津 健太郎）



写真1 修理前の屋根面（北西から見る）



写真2 背面屋根、檜皮の解体状況と近世期の野小舞（南東）



写真3 屋根平葺き復旧状況（北西からみる）



写真4 彩色部の仕様確認・記録作業（身舎柱にて）



写真5 内法長押で確認された古い彩色の痕跡（菊花）

重要文化財 金剛峯寺山王院本殿の 保存修理

建築年代：大永2年（1522）
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、
部分修理
事業期間：2024.11～2026.10

建物の概要

高野山が開かれた当初から祀られていたと伝わる山王院本殿は、壇上伽藍西端の一段高い場所に位置する。

向かって右から春日造の丹生明神社、高野明神社、流見世棚造の総社が東面して並び建ち、重要文化財に指定されている。境内の東側は、附指定の鳥居と透塀で結界されている。

各社殿は檜皮葺で、墓股や木鼻には彫刻が施され、随所が極彩色や飾り金具で装飾されており、室町時代後期の神社建築の特徴を良く表した建物である。

丹生明神社には高野山中腹の丹生都比売神社の主祭神である丹生明神、高野明神社には弘法大師空海を高野山に導いたと伝えられる狩場明神、総社には十二王子、百二十伴神が祀られる。

保存修理の内容

事業は令和6年度からの3か年事業として、各社殿の檜皮葺屋根の葺替や塗装工事、鳥居及び透塀の塗装工事を実施する。初年度となる令和6年度は屋根工事の入札を行い、令和7年7月からの現地での施工に備えて檜皮材の調達や拵えを進めた。

（多井 忠嗣）



修理前全景（南西面）

重要文化財 丹生官省符神社本殿防災 設備等事業

建築年代：天文9年（1540）
所在地：九度山町慈尊院
事業の種類：防災整備改修
事業期間：2023.06～2024.10

建物の概要

丹生官省符神社は、高野山へと続く町石道の入口に位置し、室町時代後期に建てられた本殿三棟が重要文化財に指定されている。境内地全体も国史跡に指定されているほか、世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の構成資産としても登録されている。

事業の内容

令和2年度に実施した本殿の修理事業に引き続き、令和5年度からの2か年度事業として防災設備を整備する事業を実施し、令和6年11月で完了した。

今回の事業においては、主に型式の失効や老朽化が進んできた既設の火災報知設備や消火設備、避雷針等の改修を行うと共に、防犯設備を新設した。最終年度である本年度は、炎感知器や受信盤などの新設や放水銃の取り替え、防火水槽の防水工事、警報装置の新設を行い、全ての工事が完了した。

世界遺産登録に伴い神社を訪れる人も増加し、参詣道という性格上、従来の参拝とは異なる旅行者にも対応する必要が生じていた。警報は関係者の携帯電話でも受信できるよう、実効性にも配慮した。

（多井 忠嗣）



警報装置と連動した照明設備の試験状況

県指定文化財 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿の保存修理

建築年代：力侍神社本殿 寛永11年（1634）
摂社八王子神社本殿 寛永元年（1624）
所在地：和歌山市川辺
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2024.07～2025.11

建物の概要

力侍神社は、和歌山市の中心部から東北に約9km、紀ノ川北岸の平野部に位置する。この地域一帯は古代より開けた地域で、縄文晩期から連続として集落の存在が確認されており、条里制がよく残っていることでも知られている。中世には熊野参詣道が通り、王子社も存在した。この熊野街道は近代に至るまで和歌山と大阪を結ぶ主要街道であった。

力侍神社の創立は定かでないが、社伝によると平安中期、田辺市本宮町の大斎原に鎮座していた天手力男神社を、現在地から約1km北西の和歌山市神波に勧請したのに始まるという。その後その地より北西へ約1kmの上野村の八王子社境内に遷され、さらに八王子社とともに現在地に遷されたとされる。

現在の社殿の建立年代は、棟札によって力侍神社本殿が寛永11年（1634）、摂社八王子神社本殿が寛永元年（1624）であることがわかる。社殿は2殿とも一間社流造で、摂社の八王子社の方が寸法的に一回り大きい。様式的にはほとんど同一であり、同時期に一連のものとして建立されたと考えられている。



仮設工事（素屋根の建設）



修理前全景（手前：力侍神社本殿、奥：摂社八王子神社本殿）

保存修理の概要

平成7年度から9年度にかけて力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿ともに解体修理工事が実施された。両殿とも屋根は柿葺に復原し、ほとんど剥落していた外部彩色の復原整備を行った。

柿葺の屋根は、前回の解体修理から約30年が経過し、平葺全面で劣化が進んでおり、雨漏りによる化粧野地板の腐食、箱棟廻り木部の劣化なども認められた。令和3年には屋根全面を鉄板で覆って養生している。また、柱の金欄卷・向拝・長押・組物などの彩色や軸部・縁廻り・壁面の丹塗・墨塗・胡粉塗等の塗装に鱗状の剥離や剥落が生じていた。そのため、令和6年度から7年度の2カ年で屋根葺替・塗装修理・部分修理を実施することとした。

6年度は、仮設工事として素屋根・軒足場の建設を行い、屋根工事は柿板の作製を行った。塗装工事のうち彩色の剥落止めの一部を実施した。7年度は、剥落止め終了後、屋根葺き替え工事を行い、その後彩色の補筆、単色の塗装の塗り替えを行う予定である。

（寺本 就一）



塗装工事（彩色の剥落止め）

県指定文化財 西田中神社羊宮神社 本殿・八幡神社本殿の保存修理

建築年代：羊宮神社本殿 室町時代後期
八幡神社本殿 寛永12年(1635)
所在地：紀の川市中井阪
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2023.09～2024.09

建物の概要

西田中神社は和歌山県の北部を流れる紀ノ川沿いの、紀の川市中井阪に所在する。中井阪を含む旧打田町域の南半部には平安期から戦国期に「田中荘」といわれる荘園があった。田中荘には「田中荘八社」という産土神があり、『紀伊続風土記』には「荘中地主神八社ありこれを田中の八社と称す何れも古は社殿壮麗に神田も多くあり…」と記されている。昭和20・21年に田中荘八社は東西に二分された。山王権現へは、若宮八幡宮(上ノ宮)・中ノ宮・一ノ宮(竹房神社)の社殿を移築、合祀して東田中神社と改名された。羊宮境内には若宮八幡宮(下ノ宮)を移築、妙見社と下井阪に所在した住吉神社を合祀し、西田中神社とした。後に妙見神社と住吉神社は元の社地に遷座された。

西田中神社は、境内正面の拝殿の後方に透塀・土塀で囲まれた神域があり、東に八幡神社、西に羊宮神社を祀る。羊宮神社・八幡神社はともに社伝や「紀伊続風土記」によると天正年間の兵火により記録や社殿をことごとく焼失したとあり、由来については詳らかではない。ただ、羊宮本殿は細部手法から室町時代後期の建立とされており、平成5年3月に実施された解体修理に伴う発掘調査では、「羊宮神社本殿跡には焼



竣工全景(手前：八幡神社本殿 奥：羊宮神社本殿)

けた痕跡がみられず、羊宮は焼けていないものと推測される。」とあり、羊宮神社本殿は兵火には罹っていないと考えられる。

羊宮神社本殿は、一間社隅木入春日造の建物で、建立年代は細部手法から見て室町時代後期天文年間(1532～1555)以前と思われる。木鼻・墓股・手挟等の彫刻が多くて出来もよく、室町後期の様相をよく伝えている。特に向拝頭貫木鼻の彫刻は、鯨が尾をはね上げ尾の先で連斗をうける珍しい形式で、現在他に類例はない。また、向拝の手挟が、丸彫と籠彫と左右異なるのも珍しい。

八幡神社本殿は二間社流造で、高欄の擬宝珠銘から寛永12年(1635)建立であることが明らかである。春日造の本殿が多い当地方にあって、類例の少ない四座の二間社流造の社殿で、外陣及び内陣の内部は間仕切りがなく二間通しの一室とする。墓股等の彫刻は優れており、向拝柱中央の手挟の牡丹の透彫は特に優れている。

保存修理の概要

平成4年度から6年度にかけて羊宮神社本殿・八幡神社本殿ともに解体修理工事が実施された。両殿と



羊宮神社本殿向拝木鼻



八幡神社本殿手挟



羊宮神社本殿の彩色の補筆

も屋根を檜皮葺に復原し、ほとんど剥落していた外部彩色の復原整備が行われている。

屋根の檜皮葺は、前回の解体修理から30年が経過し、平葺全面で劣化が進んでおり、箱棟廻り木部の腐朽も認められた。また、柱の金欄巻・向拝・長押・組物等の彩色や軸部・縁廻り・壁面の丹塗・墨塗・胡粉塗等の塗装に鱗状の剥離や剥落が生じていた。そのため、令和5年9月から6年9月にかけて屋根葺替・塗装修理・部分修理を行った。令和5年度には、屋根工事、木工事、塗装工事の一部、自動火災報知設備の取り替えを行った。

塗装工事は、昨年度には、彩色の経年による剥離を食い止めるために剥落止めを行った。本年度は、完全に剥落した箇所の補筆を行い、縁廻り高欄下と身舎内法長押下を中心に、丹塗りや胡粉塗・黄土塗・墨塗等の褪色の著しい塗装部分を在来の工法に倣って塗り直した。取り外してあった箱棟・高欄の飾り金具は、清掃・整形・金箔押しを施して、元の位置に取り付け直した。すべての作業が完了した後、素屋根等の仮設を解体した。

彩色の補筆は、完全に剥落した箇所をドーサ液で木地固めを行い、胡粉で下地を作ってから実施した。剥落止め箇所と補筆箇所の境目にはややぼかしを入れ、



八幡神社本殿の塗装作業



八幡神社本殿の彩色の補筆

境目がわかりにくくなる方法を採用した。補筆完了後、彩色部分を和紙と布糊を用いて養生し、旧塗装の掻き落とし、ドーサ液による木地固めを行った。なお、掻き落した粉末には鉛成分が含まれるため、周辺の飛び散らないように十分に養生を行った。塗装は、顔料を膠で定着させる在来の工法によって実施したが、雨のかかる部分などには少量の合成樹脂を混合したものを用了。彩色養生の和紙はぬるま湯で布糊を溶かして外し、擬宝珠などの飾り金具を取り付けた。仮設解体までの養生期間中に、丹塗りの変色等は見られなかったが、縁下壁面の墨塗にカビが確認された。伝統的な材料を用いて施工する文化財建造物の修理では、材料である顔料の化学変化による変色、顔料の接着剤である膠へのカビの発生が見られることがある。カビ等が発生した場合にはアルコールによる殺菌処理を行うなど、適切な施工を進めた結果、良好な仕上がりを確保できた。仮設の解体、塗装、彩色の補筆を行って保存修理工事完了した。

すべての工事が完了した後、地元の方々に向けて見学会を行った。その後遷座祭を行い、秋の例大祭にあわせて奉祝祭が執り行われた。 (寺本 就一)



西田中神社完成見学会

和歌公園観海閣新築工事

建築年代：新築
所在地：和歌山市和歌浦中
事業の種類：設計意図伝達業務
事業期間：2023.08～2025.12

建物の概要

観海閣が建つ和歌の浦は古代から景勝地として知られ、国の名勝に指定されている。江戸時代には紀州藩初代藩主である徳川頼宣により、和歌浦湾の小島である妹背山に対岸からの石橋・三断橋が架けられ、山の中腹には多宝塔、その参道である石階段の先には東側三分の一ほどが海にせり出す望楼・観海閣が設けられた。初代の観海閣は幕末期に暴風雨で倒壊するが、和歌山城下の庶民の手で慶應3年（1867）に再建される。しかしその建物も第2室戸台風で倒壊し、和歌山県によりRC造建物として整備された。今回は老朽化が進んだ同建物を建て直すにあたり、当地が国の名勝に指定されている事を踏まえ、景観に配慮し真正性を確保した外観の建物とする必要があるため、古写真等が多数残る慶應再建建物の姿に準ずる方針とし、当和歌山県文化財センターが担当して令和4年度に実施設計が完了した。

新築事業の内容

令和5年度からの2か年度の公共工事として、新築工事が進められている。現行の法令に準拠するため、従来石製の柱が建てられていた海部基礎は、特殊型枠



RC造による石柱の再現



小屋組の組立状況

を用いたRC造で再現することとなった。陸部も地中にコンクリート製の基礎を打設した上に、妹背山に存在されていた礎石古材を再利用し、不足分は古材と同じ仕様で新調した花崗岩製礎石を補足して配した。

木工事に関しては、文献資料や古写真より化粧材には檜が用いられていたことが確認出来たため、和歌山県産の檜材を用いて進めている。小屋組や床組などの見え隠れに至るまで伝統工法を基本とする設計としたため、社寺建築や文化財建造物の修理の実績を有した和歌山県内の大工が担当し、部材の加工や組立を進めている。現場は平地の限られた島であり、強い海風の影響も受けることから、軒廻りや小屋組は一旦別の作業場で仮組みしたうえで現場組立を行うなど、効率良く確実な施工を確保する工夫も行い、令和6年度中に、軸部と屋根野地までの組立が完了した。

併行して瓦や石階段などの石材の加工も進め、鬼瓦は和歌山城天守閣に保管されていた古材を参照し、復元的に新調した。令和5年度に海部で検出された近世の基礎の保護対応等の必要から、事業期間を令和7年12月まで延長して施工を進めている。

(多井 忠嗣)



軸部の組立状況

史跡 旧名手宿本陣 名手役所主屋前土塀の復旧

建築年代：江戸時代後期
所在地：紀の川市名手市場
事業の種類：復旧
事業期間：2024.05～2025.03

事業の概要

名手役所の主屋前土塀の復旧工事において、残存している土塀を部分的に再用し、復旧範囲の特定や工法について技術指導を行った。意匠は古写真と残存部分をもとに設計した。まず経年で弱体化している部分を取り除き、形状を整えた後に表面の壁土を清掃し、内部の石積みを現わした。その後、土塀復旧用の型枠を組み立てた。中央部に残存部の仕様に倣った石積みを行い、段階的に土を詰めて叩き締めながら作業を進めた。その際に錆び対策を施した鉄筋による構造補強を行った。

屋根工事は土塀の積み上げを完了し、乾燥期間を設けた後に行った。軒先の棧瓦は少数だが発掘調査で出土した瓦と同じ文様のものを再用し、不足分は新調した。それ以外の種類の瓦については、古写真や主屋で使用されていたものを参考に新調した。

最後に左官工事にて、漆喰の下地に補強を施し、上塗り仕上げまで進め、軒丸瓦と熨斗積み端部の取り合いにも漆喰塗りを施し、全ての作業が完了した。

(大給 友樹)



主屋前土塀の竣工状況（南からみる）

県指定名勝 藤崎弁天手水舎の保存修理

建築年代：江戸時代後期
所在地：紀の川市藤崎
事業の種類：解体修理
事業期間：2024.04～2025.03

建物の概要

藤崎弁天手水舎は、令和2・3年度に解体修理を実施した弁天堂南側の石階段下西脇に位置する。沿革は不明であるが、虹梁や同木鼻の彫刻の特徴から江戸後期の建物と考えられ、古岳幽眞が藤崎弁天を整備した際に建立されたものと推定される。

保存修理の内容

手水舎の軸部で蟻害が進み、軒廻り木部なども瓦屋根からの漏水で腐朽が目立っていた。正面の虹梁と木鼻以外は比較的新しい輸入材が用いられており、瓦屋根下地には弁天堂の縁板古材とみられる転用材も認められたことから、昭和50年頃に弁天堂で大規模な修理が行われた時期に改修されたものと考えられる。

基礎の痕跡からかつては桁行が現在よりも1支分広く取られた長方形平面であったことが判明したが、建物本体の史料が確認出来なかったため現状修理とした。当初材を再用した以外は檜材で整備し、木割りを整えた上で施工した。一方、コンクリートで根巻きされていた柱足元は、弁天堂の向拝柱に倣い礎盤建ちとし、風対策として煽り止め金具で補強した。

(多井 忠嗣)



竣工全景（南西面）

護国院の歴史的建造物図面作成

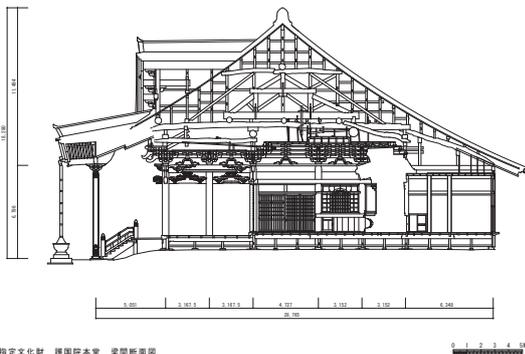
所在地：和歌山市紀三井寺
事業の種類：図面作成
事業期間：2024.06～2025.03

事業の概要

県指定文化財である本堂、開山堂、大師堂、六角堂、三社権現社、書院に加え、未指定の北門を実測調査したうえで、CADによる基本図面を作成する業務を行った。

本堂は棟高17mの大規模建築であるため、従来の作業足場を仮設する方法で高所を正確に実測することが困難な状況であった。そのため、専門業者の協力を得て、地上固定型の3Dレーザースキャナーとドローンを併用し、点群データで作成したデータからも寸法の計測を行った。

(大給 友樹)



県指定文化財 護国院本堂 梁間断面図
護国院本堂の梁間断面図



本堂の点群データ（護国院提供）

養源寺境内建物の実測調査

建築年代：江戸時代、昭和時代
所在地：有田郡広川町広
事業の種類：実測調査
事業期間：2024.12～2025.03

建物と事業の概要

養源寺は、室町時代草創の日蓮宗寺院である。宝永地震時の津波被害を受けて、現在の境内地へと移った。境内の中心には本堂と大黒堂が東面して並び建ち、本堂の後方には町指定文化財の書院を接続する。その他、庫裡、妙見堂、地藏堂、鐘楼、東門、南門などで構成される。境内西側の境界となる「養源寺堀」は、中世期以来の石積み遺構である。

本業務では、歴史的風致維持向上計画を進める広川町からの依頼を受けて、その構成要素である当寺の本堂と大黒堂、書院の主要建造物3棟について、実測平面図ほか建物の各種調査を行った。(下津 健太郎)



本堂（右手前）と大黒堂（左奥）の正面外観（東から見る）



大黒堂外観（昭和戦前期の再建）

【関連研究】頁岩製とサヌカイト製石製品の比重による判別は可能か

1. はじめに

近畿における弥生時代の打製石製品の石材は、主にサヌカイト（大半が二上山産または金山産）が利用されている。和歌山県においても紀北地域ではサヌカイトがほとんどであるが、紀南地域ではサヌカイト以外に地元で産出する頁岩を利用する例がある。頁岩は、強度的にはサヌカイトに劣ると推察されるが、入手や加工の容易さで利点がある。

この頁岩製石製品は、サヌカイト製石製品と同様に黒色を呈しており、風化や摩滅しているサヌカイト製とは判別が付きにくいものも存在している。そこで、肉眼観察による誤判別しないために何か方法はないかと検討した結果、比重による判別が可能か実験的に試みることにした。

2. 対象遺跡の概要

今回対象とした遺跡は、令和6年度に（公財）和歌山県文化財センターが発掘調査や整理作業に関わった中で、弥生時代の石製品が出土した和田岩坪遺跡（和歌山市）、立野遺跡（西牟婁郡すさみ町）、八反田遺跡（新宮市）である（対象遺跡の概要は本年報参照）。また、比較資料として、体験用の二上山産サヌカイトも計測した。

3. 計測資料について

和田岩坪遺跡の計測資料は剥片5点で、いずれも肉眼観察ではサヌカイト製とみられる。

立野遺跡の計測資料は剥片など14点で、肉眼観察

では頁岩製9点、サヌカイト製1点、頁岩かサヌカイトの判別ができないもの3点、黒色を呈した頁岩でもサヌカイトでもない石材1点である。

八反田遺跡の計測資料は石鏃2点・尖頭器2点・打製石庖丁1点・石斧1点・砥石1点・未成品1点・剥片5点の計13点で、いずれも肉眼観察では頁岩製とみられる。なお、出土資料の中に頁岩の自然石（川原石）が含まれていたので比較資料として計測した。

4. 計測方法と結果について

まず、石製品の重量を計測する（写真1）。次に、水を入れた容器を重量計に置いて0gにセットする。この水を入れた容器に糸をくくり付けた石製品を入れて、水中での重量を計測する（写真2）。この際、石製品が容器の底に触れないように注意する。これらの重量をもとに、 $\text{比重} = \text{重さ（重量）} \div \text{体積（水中での重量）}$ で算出する。本来は4℃の水の密度が1g/cm³なので4℃の水が望ましいが、今回は常温の水で計測した。

比重の計測結果は表1のとおりである。肉眼観察でサヌカイト製とした資料の比重は2.49～2.60、頁岩とした資料の比重は2.63～3.08となり、両者は重なることはなくサヌカイト製の方が低い値となった（自然面を有する体験用資料除く）。比重が2.55前後ならサヌカイト製、2.65前後なら頁岩製に判別できることを示している。ただし、比重2.60前後であれば比重だけで石材を判別するのは難しそうである。また、例えば立野遺跡登録31-1のような1g以下の微細資料については、計測結果ではサヌカイトの比重であるが、水中での重量が0.01g減少するだけで頁岩の比重になってしまうので、微細資料については注意が必要である（微細資料では糸の体積も影響を与える）。



写真1 石材重量計測

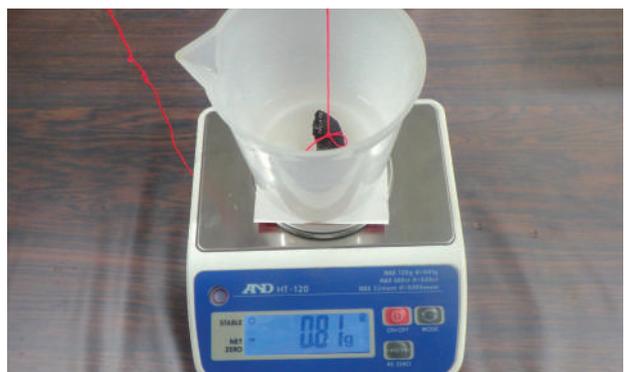


写真2 水中での重量計測

比較資料として計測した二上山産サヌカイトは、自然面のない資料では比重が2.55～2.59であるのに対し、半面に風化した自然面を残す資料では比重が2.63となることから、自然面が大きく残る資料についても注意を要する（ただし、風化した自然面を有するものであれば肉眼でサヌカイトの見極めは可能である）。

計測した結果、ある程度は判別できる可能性があることがわかった。ただし、石材は不純物の多寡や風化などによって比重が変わる場合もあり、現時点では肉眼観察による判別と合わせて総合的に判断することが重要である。

なお、執筆にあたっては、2・3を田之上・仲原、1・4・5を仲原が担当した。

5. まとめにかえて

(田之上 裕子・仲原 知之)

比重によるサヌカイト製・頁岩製石製品について

表1 出土石材重量計測表

遺跡	遺物番号等	出土地点	調査	器種	重量(g)	水中での重量(g)	比重	肉眼観察
和田岩坪遺跡	S5	遺物包含層第4層	令和4年度センター調査	剥片	5.72	2.30	2.49	サヌカイト
和田岩坪遺跡	S6	100自然流路第5層	令和4年度センター調査	剥片（自然面あり）	28.60	11.00	2.60	サヌカイト
和田岩坪遺跡	S7	100自然流路第7層	令和4年度センター調査	剥片	22.90	8.90	2.57	サヌカイト
和田岩坪遺跡	S18	100自然流路第5層	令和4年度センター調査	剥片	3.43	1.36	2.52	サヌカイト
和田岩坪遺跡	S19	遺物包含層第4層	令和4年度センター調査	剥片	2.09	0.81	2.58	サヌカイト
立野遺跡	登録2-1	1トレンチ第3層	令和6年度試掘確認調査	剥片	4.53	1.63	2.78	頁岩
立野遺跡	登録4-1	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	5.53	2.10	2.63	頁岩
立野遺跡	登録4-2	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	4.28	1.63	2.63	頁岩
立野遺跡	登録4-3	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	9.35	3.50	2.67	頁岩
立野遺跡	登録4-4	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片（大型）	79.94	29.60	2.70	頁岩
立野遺跡	登録6-1	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	素材か	22.33	8.40	2.66	頁岩
立野遺跡	登録7-1	1トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	7.64	3.02	2.53	堆積岩？
立野遺跡	登録8-1	1トレンチ地山面	令和6年度試掘確認調査	剥片	0.89	0.34	2.62	頁岩かサヌカイト
立野遺跡	登録8-2	1トレンチ地山面	令和6年度試掘確認調査	剥片	4.65	1.76	2.64	頁岩
立野遺跡	登録14-1	2トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	1.65	0.61	2.70	頁岩かサヌカイト
立野遺跡	登録28-1	5トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片（大型）	53.75	20.10	2.67	頁岩
立野遺跡	登録31-1	6トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片	0.71	0.28	2.54	頁岩かサヌカイト
立野遺跡	登録31-2	6トレンチ第4層	令和6年度試掘確認調査	剥片（自然面あり）	3.37	1.32	2.55	サヌカイト
立野遺跡	登録38-1	9トレンチ第3層	令和6年度試掘確認調査	剥片か尖頭器	18.02	6.70	2.69	頁岩
八反田遺跡	S4	東側溝第6層以下	令和5年度新宮市調査	石斧	440.38	164.80	2.67	頁岩
八反田遺跡	S9	包含層掘削	令和5年度新宮市調査	剥片	3.87	1.38	2.80	頁岩
八反田遺跡	S11	排土中	令和5年度新宮市調査	剥片	4.29	1.63	2.63	頁岩
八反田遺跡	S12	第1面	令和5年度新宮市調査	尖頭器	8.63	2.99	2.89	頁岩
八反田遺跡	S13	遺構424	令和5年度新宮市調査	未成品	294.04	105.60	2.78	頁岩
八反田遺跡	S15	遺構472	令和5年度新宮市調査	剥片	24.87	9.36	2.66	頁岩
八反田遺跡	S17	遺構500下層	令和5年度新宮市調査	剥片	39.86	14.41	2.77	頁岩
八反田遺跡	S21	遺構560A	令和5年度新宮市調査	剥片	4.10	1.33	3.08	頁岩
八反田遺跡	S22	遺構565	令和5年度新宮市調査	尖頭器	69.09	25.01	2.76	頁岩
八反田遺跡	S24	整地層	令和5年度新宮市調査	石鏃	4.42	1.51	2.93	頁岩
八反田遺跡	S25	遺構417	令和5年度新宮市調査	石鏃	4.61	1.72	2.68	頁岩
八反田遺跡	S26	遺構565	令和5年度新宮市調査	打製石庖丁	167.10	62.21	2.69	頁岩
八反田遺跡	S28	整地層	令和5年度新宮市調査	砥石	132.50	49.70	2.67	頁岩
八反田遺跡	-	-	-	自然石（川原石）	261.00	98.00	2.66	頁岩
八反田遺跡	-	-	-	自然石（川原石）	109.50	41.00	2.67	頁岩
八反田遺跡	-	-	-	自然石（川原石）	88.50	33.00	2.68	頁岩
二上山	-	体験用サヌカイト	-	剥片	10.21	4.00	2.55	サヌカイト
二上山	-	体験用サヌカイト	-	剥片	5.65	2.19	2.58	サヌカイト
二上山	-	体験用サヌカイト	-	剥片	1.71	0.66	2.59	サヌカイト
二上山	-	体験用サヌカイト	-	剥片（自然面あり）	27.04	10.30	2.63	サヌカイト
二上山	-	体験用サヌカイト	-	剥片（自然面あり）	10.01	3.80	2.63	サヌカイト

令和6(2024)年度の普及活動

○センター全体に関する普及事業

・「文化財センター情報誌 風車」発刊

今年度は、105号、106号、107号、108号の年4回発刊した。105号として、「特集：前田遺跡の発掘調査」、106号として、「特集：東田中神社境内社旧竹房神社本殿と西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿の保存修理工事」、107号として、「特集：新宮市・八反田遺跡の発掘調査―紀南の弥生時代中期から古墳時代前期の集落を掘る―」、108号として、「特集：出土遺物の整理作業～発掘調査報告書が完成するまでの裏側を紹介～」を刊行した。

・「和歌山県文化財センター研究紀要」発刊

和歌山県内における文化財に関する調査研究活動等の成果を広く公表する場を提供することで、県民に県内の文化財の学術的評価を周知し、文化財の保存活用に寄与するとともに関係職員等の学術交流、資質向上を図ることを目的として、令和4年度より研究紀要を発刊している。

第3号となる研究紀要には、論文2編、研究ノート2編、資料紹介2編、分析報告1編を掲載した。

・「地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会―」

令和6年11月24日(日)に岩出市民俗資料館において、近年の文化財調査の成果などを知っていただくため、「地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会2024―」と題して開催した。参加者数は27名であった。

報告内容は、「日高平野における弥生時代後期の集落―日高町荊木遺跡の発掘調査―」石丸彩(当センター)・白井諒氏(日高町教育委員会)、「西国分廃寺の発掘調査―那賀郡における白鳳寺院の一事例―」本多元成氏(岩出市教育委員会)、「明治時代の友ヶ島砲台―由良要塞跡友ヶ島地区第1次確認調査―」富永里菜氏(和歌山市文化振興課)、「紀州徳川家初代 徳川頼宣が建てた水上楼閣『観海閣』の礎石発見か!?―和歌山市名勝和歌の浦 観海閣整備工事に伴う調査―」金澤舞氏(和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課)、「重



地宝のひびき 開催風景



「和歌山県文化財センター研究紀要 第3号」



地宝のひびき報告資料集

要文化財増田家住宅表門の保存修理事業「ナマコ壁の補修と耐震補強」多井忠嗣（当センター）の5本である。上記に、誌上報告4本の報告を加えて報告会資料集を刊行した。なお、作成した報告会資料集は、関係機関に送付した。

・「和歌山県内文化財調査成果展紀州のあゆみ 2024」

近年に県内で実施された文化財関係の調査成果を県民などに公開することを目的に、岩出市民俗資料館で展示を行った。



紀州のあゆみ 展示解説リーフレット（一部）



紀州のあゆみ 展示の様子

展示を行った遺跡は旧吉備中学校校庭遺跡（有田川町）、荊木遺跡（日高町）、八反田遺跡（新宮市）、岩橋千塚古墳群、和田岩坪遺跡、太田・黒田遺跡（和歌山市）、西国分廃寺（岩出市）、東郷遺跡、前田遺跡（日高川町）、八幡山城跡（御坊市）、パネル展示を行った遺跡は、大野城跡、大向出城跡（白浜町）、名勝和歌の浦 観海閣、由良要塞跡友ヶ島地区（和歌山市）で

ある。なお、由良要塞跡友ヶ島地区については、和歌山市から借用した28cm榴弾砲ジオラマも併せて展示した。また、展示会場である那賀地域を代表する建造物事業の成果発表として、重要文化財増田家住宅（岩出市）、西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿（紀の川市）の事業内容をパネルで併せて展示した。

展示期間は令和6年11月6日（水）～12月2日（月）、来館者は75名であった。

○埋蔵文化財に関する普及事業

・研修

「令和6年度和歌山県埋蔵文化財専門研修（技術研修）」

・談話会

「談話会～文化財にまつわるお仕事ってどんなコト?～」

・発掘調査報告会・現地説明会

「前田遺跡発掘調査」

「大芝遺跡発掘調査」

・「令和6年度第13回風土記まつり」

・「関西考古学の日2024」関連事業 スタンプラリー

令和6年度和歌山県埋蔵文化財専門研修（技術研修）

令和6年7月9日（火）、10日（水）に、県教育委員会と協働して、若手の県内文化財担当職員等を対象に出土遺物等整理技術を習得することを目的とした研修を開催した。

出土遺物の注記や写真撮影等について、仲原知之、田之上裕子（当センター）が講義し、各整理作業の実習を行った。



専門研修 開催の様子

談話会～文化財にまつわるお仕事ってどんなコト?～

県内在住・通学の中学生、高校生を対象に文化財に関係する仕事の紹介や参加者の疑問質問に答え、地域の文化財への理解を深める目的で、令和6年8月25日（日）、和歌山県立紀伊風土記の丘資料館研修室で実施した。参加者は3名であった。



談話会 開催の様子

【現地説明会】

- ・大芝遺跡 令和6年11月30日（土）参加者 65名
令和7年2月4日（火）
参加者 15名（中津小学校児童ほか）
令和7年2月7日（金）
参加者 57名（川辺西小学校児童ほか）



大芝遺跡 発掘調査現地説明会の様子

発掘調査報告会・現地説明会

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の報告会や現地説明会を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に参加者を得ることができた。報告会等を開催した遺跡と開催日及び参加者は、以下の通りである。

【報告会】

- ・前田遺跡 令和6年4月28日（日）参加者 15名
(於：佐井集会場)

【令和6年度第13回風土記まつり】

「風土記まつり」は、ものづくり体験や風土記の丘競技会などのプログラムを通じ、県立紀伊風土記の丘へ来館する機会が少ない県民の来園機会の創出、さらに特別史跡岩橋千塚古墳群をはじめとする文化財や文化体験に親しむ契機の創出を目的として、平成22年度より開催されている。

令和6年10月27日（日）に開催され、当センターは「拓本体験」を計画し、まつりの運営に参加した。当日、体験参加者 51名であった。



前田遺跡 発掘調査報告会の様子



風土記まつり 開催の様子

○文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。

また、現場では施工状況の説明を通して、文化財保全について関係者や近隣住民の理解が深まるように努めた。参加者には修理概要を伝えるリーフレットを作成および配布し、工事期間においては仮設正面や社務所等に実施状況を説明する資料を掲示した。



金剛峯寺不動堂の修理概要掲示状況



金剛峯寺不動堂檜皮葺見学会での様子



金剛峯寺不動堂現場の取材対応

文化財に関わる研修事業に協力し、和歌山県内における保存修理の内容や文化財建造物の特徴について解説を行った。県内の地域文化に関する講座に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果に基づいた知見を広く県民に還元した。



金剛三昧院での研修対応（令和6年度養成教育）



観海閣現場見学会・講習会の状況

(公財)和歌山県文化財センター 令和6(2024)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	2件
埋蔵文化財出土遺物等整理受託業務	2件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	10件
埋蔵文化財遺物整理支援等受託業務	1件
文化財保存活用計画支援受託業務	2件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	20件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	06.06.11	アバローム紀の国
評議員会	06.06.26	アバローム紀の国
理事会	07.03.27	アバローム紀の国

埋蔵文化財関係会議

令和6年度第1回(第69回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	06.06.07	向日市永守重信市民会館
第45回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	06.06.13-14	福島県福島市、双葉郡富岡町
令和6年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	06.10.10	神戸市ホテル北野プラザ六甲荘
第38回令和6年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック事務担当者会議	06.10.18	公益財団法人元興寺文化財研究所 総合文化財センター
令和6年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿地区デジタル技術等活用推進委員会	06.10.25	和歌山県民文化会館
令和6年度第2回(第70回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	07.02.04	向日市永守重信市民会館
令和6年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議	07.02.21	向日市永守重信市民会館

文化財建造物関係会議

令和6年度重要文化財建造物保存修理事業等監督者会議	06.04.11	主催：文化庁
令和6年度文化財建造物保存事業幹部技術者研修会	06.04.12	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和6年度文化財建造物保存事業技術者養成教育	06.04.15-07.03.07	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和6年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会(第70回)	06.10.21	主催：文化庁
令和6年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	06.10.22-23	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和6年度文化財防災のための詳細資料調査業務に関する進捗報告会	07.02.06	主催：(独)国立文化財機構文化財防災センター

委員委嘱

濱崎 範子 由良町文化財保護審議会委員	05.04.01-07.03.31	由良町教育委員会	04.03.03 付依頼
多井 忠嗣 海南市文化財保護審議会委員	06.04.01-07.03.31	海南市教育委員会	03.05.14 付依頼

III 講師派遣・執筆など

埋蔵文化財課関係

仲原 知之「岩橋千塚古墳群研究のあゆみ」講師「連続講座 岩橋千塚」第24回	06.07.07	於：紀伊風土記の丘
濱崎 範子「由良町内の石造物の現状と調査について」『由良の文化財』	07.03 発行	

文化財建造物課関係

寺本 就一「西田中神社見学会」解説	06.04.20,08.24	於：西田中神社
大給 友樹「民家ガイドとくらし体験」講師	06.06.02	於：紀伊風土記の丘
下津 健太郎「名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻特別講義」講師	06.07.05	於：名古屋工業大学
多井 忠嗣・野田 達志「和歌公園観海閣新築工事に伴う名勝和歌の浦観海閣 現地見学会運営補助	06.08.03	於：観海閣
多井 忠嗣・野田 達志「金剛峯寺不動堂檜皮葺見学会」講師	06.09.21-10.12	於：金剛峯寺不動堂
多井 忠嗣「重要文化財温山荘園主屋・浜座敷・茶室の解説、浜座敷の保存修理事業の概要説明」講師	06.10.05	於：琴ノ浦温山荘園
寺本 就一「令和6年度(第24回)主任文化財屋根葺土検定会」外部検定員	06.10.12	於：丹波市立南ふるさと文化財の森センター
多井 忠嗣「金剛峯寺不動堂の修理現場及び高野山内の歴史的建造物」講師	06.10.19-20	於：高野山内
大給 友樹「耐久中学校生徒を対象とした主屋・本座敷・御風楼での見学案内」解説	06.10.31	於：濱口家住宅

下津 健太郎「広川町の歴史まちづくり・景観セミナー」基調講演	07.02.22 於：広川町役場
多井 忠嗣・野田 達志「不動堂・西塔見学会」講師	07.03.10 於：金剛峯寺不動堂、西塔
多井 忠嗣「観海閣現場見学会・講習会」講師	07.03.21 於：和歌の浦アート・キューブ
大給 友樹「重要文化財白岩丹生神社本殿 - 保存修理工事 - 本殿に繁茂した藻類への対処について -」 『令和6年度 文化財建造物保存事業主任技術者研修会 発表報告集』	06.10 発行

IV 刊行図書・出版物等

年報・紀要

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2023』	06.05.31 発行
『和歌山県文化財センター研究紀要 第3号』	07.03.31 発行

埋蔵文化財課関係

調査報告書

「前田遺跡 - 県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書 -」	06.11.29 発行
「和田岩坪遺跡 - 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う第2次発掘調査報告書 -」	07.01.15 発行

現地説明会・現地公開資料

「大芝遺跡 現地説明会資料」	06.11.30 発行
----------------	-------------

報告会・シンポジウム資料等

『和歌山県内文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示解説リーフレット	06.11.06 発行
『地宝のひびき - 和歌山県内文化財調査報告会 2024 -』資料集	06.11.24 発行

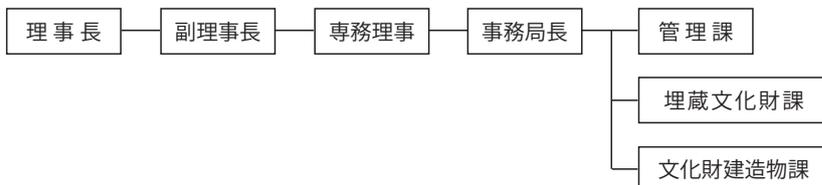
『風車』紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌『かざぐるま』

風車 105 2024 夏号 特集「前田遺跡の発掘調査」	06.08.30 発行
風車 106 2024 秋号 特集「東田中神社境内社旧竹房神社本殿と西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿の保存修理」	06.09.30 発行
風車 107 2024 冬号 特集「新宮市・八反田遺跡の発掘調査」	06.12.28 発行
風車 108 2025 春号 特集「出土遺物の整理作業」	07.03.31 発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮崎 泉	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井口 好晴	前和歌山県人事委員会 事務局長
理事	有坂 道子	京都橘大学教授
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	小野 健吉	大阪観光大学観光学部 特任教授
理事	九鬼 家隆	和歌山県神社庁長、宗教法人熊野本宮大社代表役員
理事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 名誉館長（～07.03.19）
理事	中村 浩道	大阪大谷大学 名誉教授
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会 会長
理事	増淵 徹	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長（06.06.26～）

役員（監事）

監事	風神 正典	税理士法人・風神会計事務所 代表社員・税理士
監事	吉田 雅彦	和歌山県教育庁生涯学習局 局長

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 名誉館長（～06.06.26）
小野 俊成	宗教法人道成寺 代表役員
坂下 愉美	和歌山県教育庁 文化遺産課長

佐々木公平
佐藤 亜聖
新谷 和之
千森 督子
西口 治伸
日向 進
味村 泰幸

宗教法人広八幡宮 代表役員
滋賀県立大学教授
近畿大学 准教授 (06.06.26 ~)
和歌山信愛大学 客員教授
和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
京都工芸繊維大学 名誉教授
和歌山県立博物館 副館長

職員

事務局 長

森 敦久

管理課
課 長
主 査
副 主 査

松尾 克人
出口 由香子
井阪 さゆり

埋蔵文化財課
課 長
副 主 査
副 主 査
技 師

仲原 知之
田之上 裕子
濱崎 範子
石丸 彩

文化財建造物課
課 長
主 査
副 主 査
副 主 査
技 師

多井 忠嗣
下津 健太郎
寺本 就一
大給 友樹
野田 達志

表紙図案

表紙右上
表紙下

八反田遺跡出土土師器 (有稜高坏)
護国院本堂 正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2024

2025年5月30日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1

TEL 073-472-3710

FAX 073-474-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>

E-mail kanri-2@wabunse.or.jp

公式インスタグラム

ユーザーネーム：wabunse_official

【印刷】

株式会社 協和

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>